2024_1023「彗星はどこに？（写真）」日々の理科 3730 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

「ある彗星」との出会いは、ほぼ「一回限り」ということが多いです。彗星も太陽系天体ですので、一定の周期で太陽を公転しています。しかしほとんどの彗星は何百年、何千年、何万年と公転周期が長く、ヒトの一生の間に２回以上見られる「短周期彗星」はほとんど存在しません。今回話題になった「紫金山・アトラス彗星」も、今回の地球接近の次は２０万年以上待たないと見ることはできません。天体写真を趣味としている者にとっては、まさに「最初で最後のチャンス」だったわけです。

夕方の西の空に現れる彗星の場合、太陽が沈んで空が暗くなり始める時間帯に、空のどこかに見え始めます。あらかじめ天文シミュレーションソフトなどで、ある日時の方位角と地平高度は予測可能ですが、実際の空で探すとなると、そう簡単ではありません。航空機の灯火や、その航空機が残した飛行機雲まで彗星に見えてくるのです。今回の写真は、彗星がまさに見え始めた時刻の広角写真です。さてどこに彗星があるかわかるでしょうか？

（2024 年 10 月中旬／埼玉県所沢市狭山湖）